



文責 岩根小校長 佐藤勇人

その一言の重み

いよいよ10月29日(土)には「学校へ行こう週間」第一弾として学習発表会を開催します。お忙しい時期とは存じますが、多数ご来校いただきますようお願いいたします。



子どもたちは、今月、この日を目標に学年・学級で一致団結して練習に取り組んできました。ぜひご覧になり、ご家庭でお子さんが頑張ったところをたくさん褒める機会にしたいだければ幸いです。

ところで、万葉の頃の人々は、使い方によって幸せと不幸せを左右する「言葉の持つ不思議な力」、言霊(ことだま)を信じていたそうです。この考え方は次の高橋園長の「その一言」のように、現在も私たちの生活の中に伝えられているふしがあります。

その一言

その一言で、励まされ
その一言で、夢を持ち
その一言で、腹が立ち
その一言で、泣かされる
ほんのわずかな一言が
不思議に大きな力を持つ
ほんのちよつとの一言で。

(道灌山幼稚園長 高橋系吾)

幸せの絶頂にいたのに、心ない一言によって落胆し、もうだめだと諦めていたときに、友だちから投げかけられた温かい励ましの一言葉によって元気を取り戻したりすることがよくあります。

大学生の時の体験です。友だちと激しく乱暴に言い争いをしていました。そこを通りかかった英語のN先生から、「君たちは将来教師になるのでしたね。今の議論の仕方はよくありません。言葉は、心と真実を語るものです。」と、優しくきっぱりと諭されました。私は、「はい、分かりました。これから気をつけます。」と反射的に答えました。「そうなさい。言葉は人を楽しく勇気づけるように遣ってね。」と研究室に向かって素敵に歩いて行った後ろ姿を40年近くたった今でもはつきりと覚えています。

日本語の大きな変化(乱れ)が指摘され、街の中や私たちの日常生活の中にそのような事実が溢れていることに、最近、危機感を持っている人が増えてきています。「そ

の一言」の重みを再認識するとともに、子どもたちに、場に応じた適切な言葉遣いについてきちんと指導していかねければなりません(モデルになる大人の乱れが原因だなどと言っている間に問題は深刻化してしまいます)。

保護者の皆様、地域の皆様、関係の皆様、子どもたちの言葉遣いに関心を持っていただき、可能な場面で、話題にさせていただけるとありがたいです。

〈学習発表会予行の「コマから」〉



1年生の「はじめの言葉」と「あいうえおおげきしよう」



↑ 2年生の「わくわくたんけんたい いわねをGO!」



→ 3年生の「ハリネズミと金貨」



→ 4年生の「二分の一人式」



→ 合唱部の「いのちの歌、やさしい風」



→ 5年生の「団結!! 群読&リズムパフォーマンス」



→ 6年生の「青い鳥21」と「おわり言葉」

